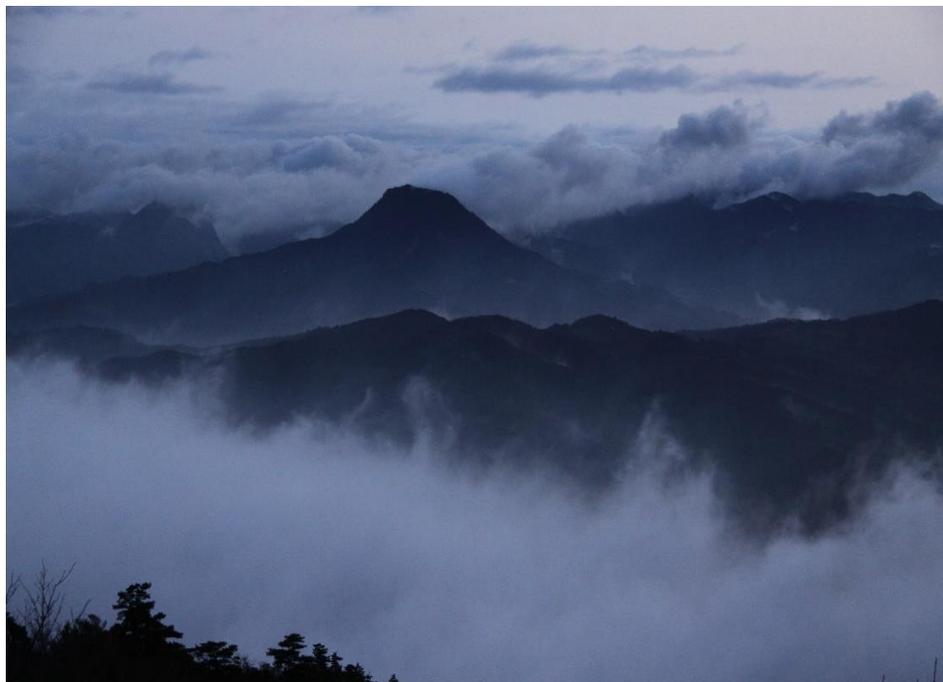


日本遺産認定記念！

鬼が仏になった里「くにさき」 を巡る旅



「くにさき」の山々（西叡山より）

(1) 本日の行程

08:45 豊後高田市役所正面玄関前 集合、受付

09:00 出発

09:30 西叡山着

・鬼が出そうな風景（くにさきの奇怪な山々）

09:50 西叡山発

10:20 長安寺着

・木造太郎天立像【国重文】 ・鬼会面

・講堂跡【県史跡】

10:50 長安寺発

11:00 天念寺着

・講堂【国名勝・県史跡】：江戸時代後期 ・修正鬼会【国無民】

・川中不動【国名勝・県史跡】：室町時代／不動明王・矜羯羅童子・制多迦童子

・無明橋【国名勝】：大正時代、VR体験

12:00 昼食 鬼会の里（蕎麦・鬼の目覚ましおにぎり）

12:40 天念寺発

13:10 岩戸寺着

・岩戸寺宝塔【国重文】：鎌倉時代後期 ・修正鬼会【国無民】

・講堂【県史跡】：江戸時代後期 ・鬼会面

13:40 岩戸寺発

14:00 成仏寺着

・修正鬼会【国無民】 ・鬼会面

14:25 成仏寺発

14:55 鬼城 着

・鬼城【国立公園内】

15:10 鬼城 発

15:30 市役所高田庁舎着

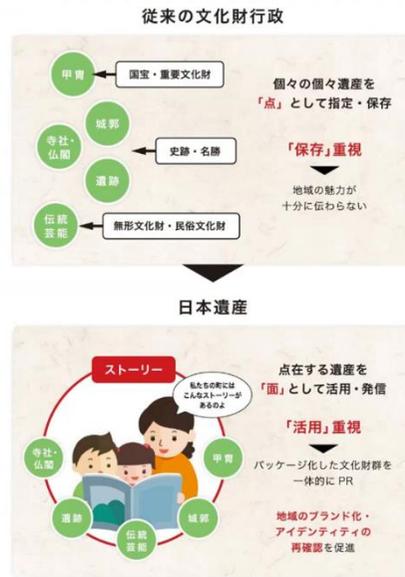
平成31年2月16日（土）

豊後高田市教育委員会

日本遺産『鬼が仏になった里「くにさき」』

☆日本遺産とは？

地域に点在する文化財群や伝統文化についてまとめた「ストーリー」を認定し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどに向けて、日本文化を発信する特区のような場所とするというもの。情報発信・普及啓発・公開活用のための整備によって文化財の活用を推進します。



【世界遺産との違い】

- ・世界遺産⇒世界最高レベルの保全の義務
- ・日本遺産⇒利用に向けた外国人旅行者への発信、地元アイデンティティの醸成など活用メイン。

☆日本遺産『鬼が仏になった里「くにさき」』

「くにさき」の寺には鬼がいる。
 一般に恐ろしいものの象徴である鬼だが、
 「くにさき」の鬼は人々に幸せを届けてくれる。
 おどろおどろしい岩峰の洞穴に棲む「鬼」は
 不思議な法力を持つとされ、

鬼に憧れる僧侶達によって「仏」と重ねられていった。
 「くにさき」の岩峰につくられた寺院や岩屋を巡れば、
 様々な表情の鬼面や優しい不動明王と出會え、
 「くにさき」の鬼に祈る文化を体感できる。
 修正鬼会の晩、共に笑い、踊り、酒を酌み交わす——。
 「くにさき」では、人と鬼とが長年の友のように繋がれる。



西叡山 —鬼が棲む地「くにさき」—

ヤマトタケルの父・景行天皇は、九州の東に張り出す「くにさき」を発見した。ヤマトの人々にとって、「くにさき」は異界との境界であり、“最果ての地”の象徴であった。幾重にも連なる奇怪な山塊には、どこか不気味で、「鬼」でも出そうな雰囲気醸し出している。

いや、この「くにさき」には、実際に鬼が棲んでいた——。



「くにさき」の神仏習合 —六郷山の叡智・太郎天—

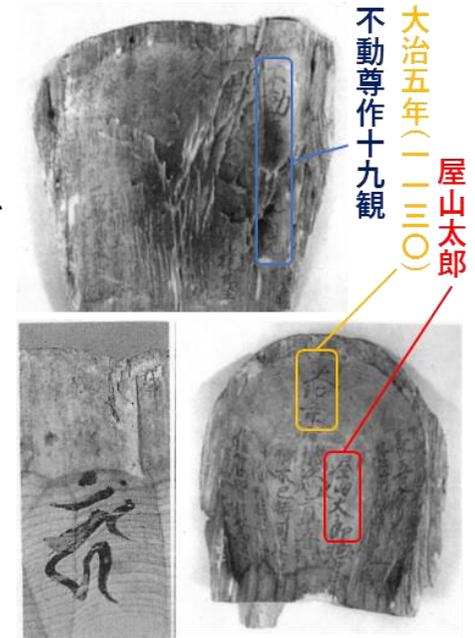


☆太郎天像の謎

長安寺には、通称「太郎天」と呼ばれる神像(仏像)が残されています。江戸時代に板井派仏師による修理が行われた際に、像の内側からおびただしい量の墨書が発見され、本像の名称が「太郎天」であることや、大治5年に宇佐・豊前の僧俗が関わって作られたこと、不動明王の化身として作られた事が分かりました。

忿怒の相で知られる不動明王を、「くにさき」独自の神と捉え、柔和な顔の童子の姿で表現した本像は、六郷山の叡智の結晶であると言えるでしょう。

他にも太郎天の誕生には様々な説があります。



鬼の棲む修行場 —岩窟の寺院・天念寺—



☆鬼会の里の風景

旧暦の1月7日に修正鬼会を執り行う天念寺は、その後背に鋭く切り立つ岩峰(耶馬)を持つ寺院と知られています。

その岩峰をうがつようにつてられた講堂で、たいまつを持った鬼が舞います。人々は鬼を先祖の霊と考えられ、無病息災・五穀豊穡に利益があるという鬼の加持を受けます。



☆VRで無明橋を体験!

天空に架かる天念寺無明橋を、ヴァーチャル・リアリティ (VR) の映像によって疑似体験ができるようになりました。

無明橋に立って周囲を見渡せる「絶景堪能 ver」と、2人の僧侶の間をゆく僧侶になりきる「峯入り体験 ver」の2パターンがあります。



おにぎりクラウドファンディングを知っていますか?

「くにさき」の協力店でおにぎりを食べると、1個あたり1円が寄附されてゆき、集まった資金でチャレンジ事業を実施します。通常のクラウドファンディングと違い、みんなで少しずつ参加できます。

最初のチャレンジ事業は【「くにさきガチャガチャ」を作ろう!】です。ご協力をお願いします!



鬼の生まれる場所 —岩戸寺・鬼の岩屋—

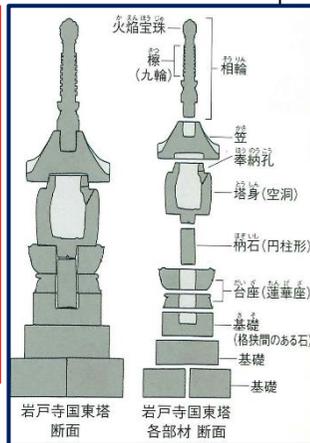
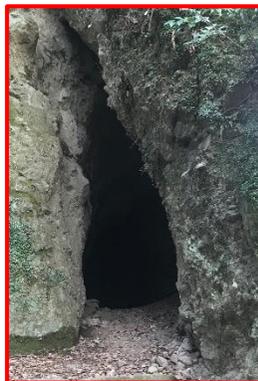
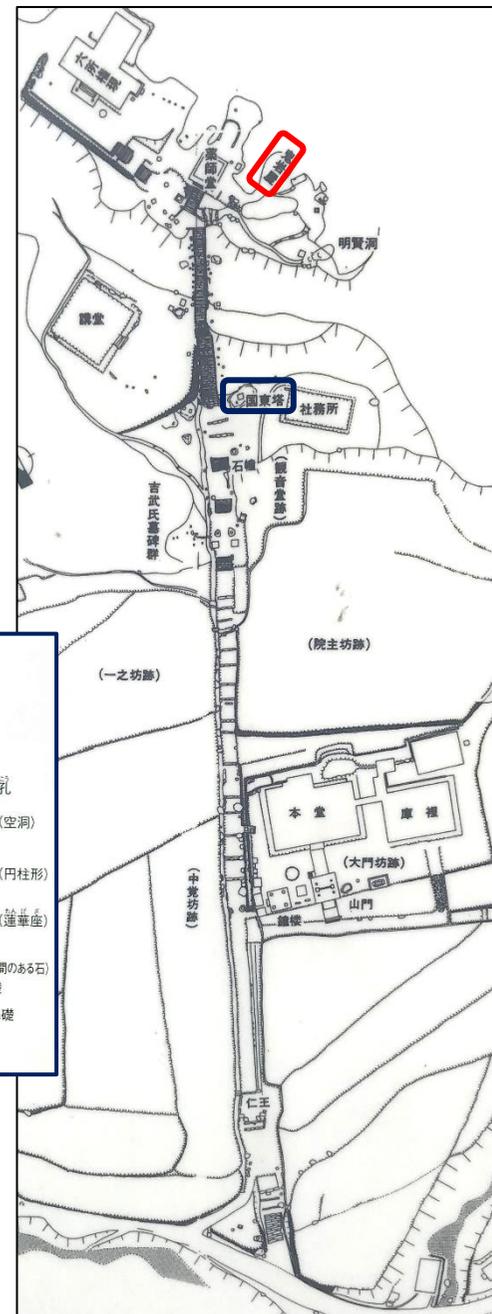


☆鬼が生まれた寺・岩戸寺

修正鬼会のルーツには、様々な謂れがありますが、古文書等における「くにさき」の鬼会の出現時期は、鎌倉後期(夷・余瀬文書の記載)とされています。

当時の社会情勢と、岩戸寺に残る伝説をかけあわせると、鬼会が生まれた理由が見えてくるかもしれません。

岩戸寺には元寇・蒙古軍の魁将の首を鎮めたとされる岩屋があり、現在でもその岩屋から、鬼が現れることになっています。最古の国東塔も、弘安の役からほどなくして造立されています。



☆岩戸寺の鬼



「くにさき」の多様な鬼を探る —成仏寺—



本日ツアーで巡った文化財リスト

☆修正鬼会の変遷

江戸時代の修正鬼会は、西・中・東の3つのグループに分かれ、旧正月に半月ほどかけて、寺々を巡りながら行われるようになりました。

現在では、当時のように盛大に行われる修正鬼会は、東西で1年に1ヶ所ずつしかありませんが、実はその裏では多くのお寺で修正鬼会に代わる仏事を執り行っています(主に豊後高田では修正会(鬼会節による)、国東市では面供養・面飾りと呼ばれています)。

☆成仏寺の鬼



西叡山【未指定】

六郷満山のはじまり「高山」があったといわれる山。いつしか西の叡山と呼ばれるようになった山の頂からの景色は僧侶たちを修行に駆り立てたのでしょうか。

長安寺・木造太郎天立像【国重文】講堂跡【県史跡】

六郷満山の修行“峯入り”を見守る神「太郎天」は、角髪を結った子どもの姿をするが、不動明王の化身とされ、六郷満山の叡智を結集させた像と言えます。

天念寺境内【国名勝・県史跡】、天念寺無明橋【国名勝】 修正鬼会【国無民】

天にも続く峯道の先には、断崖に架かる無明橋。今回、VRの技術で渡ることができるように整備しました。日本遺産を巡るときに欠かせない要素が満載の寺院。

岩戸寺【県史跡】、宝塔【国重文】、修正鬼会【国無民】

蒙古の魁将の首塚とされる奥ノ岩屋で、岩戸寺の鬼は生まれます。鬼が生まれたルーツを訪ねます。

成仏寺・修正鬼会【国無民】

成仏寺の鬼は、少し変わった風体をしていますが、この多様な鬼の姿が、人々と鬼との距離感を示してくれます。

鬼城【未指定】

鬼とともに住む里は、日本に誇る稀有な景観。日本遺産となった「くにさき」を楽しんでいただけただけでしょうか？

鬼とともに住む里で —鬼城—

☆鬼が生んだ風土、人が育んだ景観

「くにさき」には、鬼が生んだともいえる険しい地形・風土があり、そうした自然に人々は恐れ、立ち向かい、憧れ、愛でながら暮らしてきました。そうした“鬼と人とのつながり”が日本遺産に認定されたのです。



☆ストーリーの結び

「くにさき」では、怖い鬼でも仏となって、人々の願いを叶えてくれる。

鬼に憧れ、鬼と会い、鬼に祈り、鬼と笑う。そんな文化が残る「くにさき」で、あなたも鬼と友達になってみないか？

